

世界神話としての濟州神話の可能性に関する研究

— アトランティス神話を中心に —

チェ・ウォニョク (大真大学)

研究の背景と目的

- ・ 濟州神話に関する最近の研究動向の紹介（濟州神話ワールド、ソルムンデ・ハルマン展示館など）
- ・ 地域神話を越えた世界神話的アプローチの必要性の提起
- ・ スンダランド・アトランティス神話に着目し、濟州神話の始原と意味を探究
- ・ 地理的・歴史的・神話的文脈の総合的分析の試み
- ・ 濟州神話と世界神話の関連性を通じた神話学的意味の拡張

目次

- 1 I. 序論
- 2 II. スンダランドの中心地としての济州島
- 3 III. アトランティス神話と济州神話の比較
- 4 IV. 君子国と济州神話の比較
- 5 V. 結び

■ スンダランドの中心地としての済州島

- ・ スンダランド：最終氷期（前12,000～8,000年）に海面が現在より150m低かった時期に存在した大陸
- ・ 漢拏山：スンダランド地域で最も高い山として戦略的中心地の役割
- ・ 考古学的証拠：済州高山里土器（1万年前）、与那国海底遺跡（前8,000年以前）
- ・ 文明の連続性：インドネシアのピラミッド、済州トルハルバン、南米のピラミッドへと続く文化的つながり
- ・ スティーブン・オッペンハイマー：遺伝学・地質学的証拠によりスンダランドを『東のエデン』として提示

アトランティス神話と濟州神話の比較分析

- ・ 単一原型神話論（ジョーゼフ・キャンベルなど）——世界の多様な神話が深層で同一の構造を持つ
- ・ スンダランド文明に起源する神話的構造——文明伝播論の視点からのアプローチ
- ・ アトランティス神話（プラトン対話篇）と濟州のソルムンデ・ハルマン神話の水没モチーフの比較
- ・ 濟州のソルムンデ・ハルマンとシュメール粘土板の麻姑王国時代の記録との関連性
- ・ 言語学・神話学的根拠（ルワンダ語、セソト語、符都誌）——エデンの園と氷河期移住説
- ・ 世界神話の原型としての濟州神話の意義——エデンの園、ハルマゲドン、アトランティスの連結

N. 君子国と済州神話の比較

- ・ 古代中国文献における君子国・三神山・麻姑族の記録（山海経、淮南子、芸文類聚）
- ・ 君子国の領域と、三国遺事などの史料に現れる檀君朝鮮との関連性
- ・ 済州神話の古代国家的始原——符者隠志の麻姑王国と檀君朝鮮をつなく環
- ・ 三神山の水没と『桑田碧海』伝説の地理的解釈、および済州の神話との関連性
- ・ 東アジア古代文明の中心地としての済州島の神話的意味と役割

研究結果の総合

- ・ 済州のソルムンデ・ハルマン神話とアトランティス・エデンの園神話の構造的類似性の確認
- ・ スンダランドの中心地としての漢拏山の地質学的・地政学的重要性の立証
- ・ 神話学（ソルムンデ・ハルマン—麻姑）、言語学（ルワンダ語—韓国語）、考古学（高山里土器、与那国遺跡）の証拠の統合的解釈
- ・ 氷河期—後氷期の人類移動に伴う神話の伝播と変容の過程の確認
- ・ 済州神話が単なる地域神話ではなく、世界神話の原型の一つとして機能した可能性の提示

結論および今後の研究課題

- ・ 済州神話の独自性と世界性に関する新たな示唆の導出
- ・ プラトン、符都隠誌、東西の史料を統合的に解釈することの学問的価値
- ・ スンダランドの中心地としての済州島の神話的・地質学的証拠の総合
- ・ 未解読の古文獻・与那国海底遺跡などの追加研究の必要性
- ・ 東西神話比較研究の新たな方向および済州神話の再評価

参考文献

国内外の単行本および研究書

- オッペンハイマー、スティーブン『東のエデン (Eden in the East) 』、パダ出版、2020。
。
- イム・ファニョン『済州神話の世界神話的分析』、済州学研究叢書、2018。
- キム・サンイル『韓国神話と暦法に関する研究』、民俗苑、2015。

古典文献および神話資料

- プラトン『ティマイオス』『クリティアス』（アトランティス関連の対話篇）
- 『山海経』『淮南子』『芸文類聚』——君子国関連の記録
- 『符都誌』——麻姑関連の記録
- 『耽羅誌』——ソルムンデ・ハルマン関連の記録

研究論文および学術資料

- 石井輝秋「与那国海底遺跡の地質学的分析」、東京大学地質学科、2016。
- ニック・ハッサン・スハイミ「スンダランドの初期人類文明研究」、マレーシア考古学会、2017。
- ジョーゼフ・キャンベル『千の顔をもつ英雄』、民音社、2004。